

(様式第4号)

第6回上田市総合戦略推進協議会 会議概要

| | |
|-------------|---|
| 1 審議会名 | 第6回上田市総合戦略推進協議会 |
| 2 日時 | 令和元年7月29日 午後2時から午後5時まで |
| 3 会場 | 菅原高原アリーナ、東山地区ワイン圃場、チャレンジショップ豆の木 |
| 4 出席者 | 岡田基幸会長、岡崎美都里委員、加藤松子委員、熊井健二委員、重野靖委員、高野松宜委員、花岡欣二委員、原有紀委員、藤川まゆみ委員、宮島博仁委員、母袋卓郎委員 |
| 5 市側出席者 | 柳原政策企画部長、鎌原政策企画課長、加々井政策企画担当係長、原主査 そのほか現地視察対象事業担当課職員等 |
| 6 公開・非公開 | <input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開 |
| 7 傍聴者 | 0人 記者 0人 |
| 8 会議概要作成年月日 | 令和元年8月14日 |

協議事項等

1 開 会

(司会：政策企画課長)

推進協議会成立の報告と配布資料の確認。

2 あいさつ

政策企画部長からご挨拶申し上げた。

3 会議事項（進行：会長）

(1) 第5回総合戦略推進協議会 会議概要（議事録）の確認について

(2) 平成30年度 地方創生推進交付金等に係る事業評価結果について

(1)と(2)併せて事務局より説明。

(事務局) 第5回総合戦略推進協議会 会議概要（議事録）をまとめた。会議概要（議事録）は、要旨についてまとめたものとなるが、確認をお願いしたい。

続いて、事業評価の結果ということで、「平成30年度 地方創生推進交付金に係る事業評価」を資料1としてまとめた。

資料1の「外部有識者の意見」で、前回評価・検証いただいた内容について、今後事業展開を図る上での参考とさせていただくため、委員からのご意見・ご要望を中心にまとめた。

(会長) 説明いただいた会議内容、議事録、事業評価について、発言の趣旨と異なる等修正が必要な箇所等があれば挙げていただきたい。また、本心配られた資料ということもあり、本日意見等がない委員においても、修正が必要な場合は、1週間以内に事務局へ連絡をしていただくようお願いしたい。

4 現地視察による評価・検証（進行：会長）

(事務局) 本日資料として「平成30年度 地方創生事業等に係る事業評価」を配布。5月に実施した評価検証時に配布した資料と同じもの。本日は、現地視察を行う「菅平スポーツフィジカルセラピー事業」「6次産業化推進事業」「まちなか創業空き店舗活用事業」について、抜粋し配布させていただいた。本日は事業担当課に加えて菅平フィジカルスポーツセラピー協議会の会長、事業担当者の方にも同席いただいている。

「6次産業化推進事業」については、東山で行われているワイン用ブドウの栽培研究を現地視察していただくため、新規就農者の方に事業担当課とともに同席してもらう予定となっている。また「まちなか創業空き店舗活用事業」については、事業担当課に加えて実際に事業を委託している商工会議所の方にも同席いただく。

【現地視察1】「菅平フィジカルスポーツセラピー事業」

(菅平 SPT 協議会 会長) 会長から資料をもとに事業概要を説明。

(委員) 菅平は良いところ。以前健康推進委員の経験があったが、年に1回外部で研修を行っていた。委員のほとんどは女性である。女性は、ロコミで広がる。健康推進委員に体験してもらうのも良いのでは。地元の方にも知ってもらうことが大事。また、スポーツクラブ等へも出張したらどうか。

(SPT 会長) 市の健康プラザ等へも出張して実施する事は出来る。まずは上田市民に知っていただきたい。

(委員) 上田市民に広げていくには、やはり組織をうまく使っていくことが必要。昨年まで塩田地区で分館長をやっていたが、各自治会や公民館の行事で、スポーツ大会や様々なイベントを実施している。公民館活動の一つのプログラムとして案内してもらうことも良い方法の一つかと思われる。地域に自分の健康状態を感じる貴重な施設であるのだから、是非こういった事業を上手く活用出来るようなプログラムを案内してもらうと良いのではないか。

(委員) 子ども達との連携として、子どもに SPT プログラムが利用出来るのか。

(SPT 会長) 子どもに筋トレをやらせることは親があまり喜ばないが、今後キッズプログラムも検討しなければいけないと考えている。今のところターゲットとして設定しているのは、中高年の人達であるが、子どもについても検討出来るので、今後繋がりが出来れば検討したい。

(委員) こども育成会も公民館と連携して色々な行事を行っている。私の自治会で言えば毎年のキャンプ。親と子が一緒になって行う行事。移動手段さえ確保できれば、一日ワンデイで来て、キャンプなどを通して、実施する方法が自治会としてはやりやすいのではないか。

(委員) 高校生の子どもがいるが、地元に住む高校生を巻き込めば良い。高校生だとバスを使い自分で行ける。県外の子が菅平を聖地として関心を持ってきているのに、地元の高校生はあまり行ったことがない、40代、50代の親も行ったことがない。

(SPT 会長) 上田西高のバレー部に今無料で出張して教えに行っている。実証実験ではないが、どれだけ効果が出るのか、立ち幅跳びなどで3か月やって20cm伸びた等効果が出てきている。

(委員) 上田西高は部活が沢山ある。色々なところからそこを切り口にアプローチをかけてもらえたら、学校としてもいい実績になるかもしれない。

(委員) 「クロスフィットプログラム」というのが何となく分かりにくい、成果が分かりにくく何のためにやっているのか、名前だけからだと分かりにくい。「このためにこんな効果があります」と、もう少し具体的にアピール出来ると良いのでは。例えば高校の部活でも「身体能力向上に効果的」等の具体的な話があれば、もう少し勧められるかもしれない。「健康推進」だと少しぼやけてしまう。ゲーム性もないと続かないと思う。

(委員) 基本は来てもらうのが最終目的。データを集めるという作業はもう始まっている。福祉との連携も始まっているのか。

(SPT 会長) 現在、菅平フィジカルスポーツセラピー協議会でプログラムを作ってデータ取りをしている。データ取りをしないと、年齢に応じた客観的な結果をお客さんに提供出来ない。オリジナルプログラムを作成し、実際にあるプログラムを混ぜたりして一般の人でも取り組めるプログラムを作っている。それをもう少ししっかりとしたプログラムとして出来るように確立するため、データ取りをしたい。効果を図りたい。色々なものをミックスして、「あなたはどれくらいのレベルですよ」ということを教える、そのプログラム、簡単にすぐできるトレーニングを今考えている。
(器具等の視察)

【現地視察2】「ワイン圃場、試験栽培農地」

農産物マーケティング推進室 係長から事業について説明。

- ・3年計画でブドウ作りをしている。
- ・信大に依頼し苗を譲り受けて新品種を作ることを目指している。
- ・昨年度は最初実がなったが、最後の方で鳥獣害の被害で収穫出来なかった。今年も実がついてきたので管理をしっかりやって、研究会で試飲を行い味の分析を実施していきたい。
- ・予算については、土壌改良、栽培委託管理費、信大への苗の支払い等となっている。
- ・今年度が3年計画の最後の年となる。
- ・新規就農者の方から説明、質疑応答。

【現地視察3】「まちなか創業空き店舗活用事業」チャレンジショップ豆の木

商工課 係長から事業について説明。

- ・平成30年12月から実質スタートした事業。
- ・目的は中心市街地の活性化と創業支援。市内商店街に将来自分の店を出店したいと考えている新規創業者を対象に出店者を募集。
- ・出店者は安価な費用で出店ができ、本格出店に向けた準備期間として店舗運営の経験が出来るのが特徴
- ・チャレンジショップ運営により、顧客のニーズ把握と、青年会議所と市が連携して継続的なアドバイスを行い、経営ノウハウを習得してもらう。
- ・対象者は市内で新規開業を予定している18歳以上の方で、滞納等がないのが条件。
- ・対象業種は、小売業、飲食業、サービス業。単なる事務所的なものは対象外。
- ・募集方法は公募による。各種媒体を活用し広く周知を図っている。
- ・出店者の選考は書類審査と面接審査があり、審査要領に基づき委員5人で組織された審査会にて審査を実施。
- ・出店者の出費は坪単価2,000円とかなり安価な価格。それ以外は水道光熱費や店舗運営に係るその他経費、必要な物品等は出店者同士で按分負担。事業の収益は出店者へ帰属。その他、仲介手数料やキッチン等設備については、財源として、地方創生推進交付金を活用して整備。
- ・事業は商工会議所に委託。

商工会議所の方から説明。

- ・現在テナントが2つ入っている。「ル・リアン」と「ひよこ豆」。
- ・最長1年間ここで試行的に運営し、その後本格的に営業出来れば街なかで開業してもらう。

(委員) 内装関係は商工会議所で行うとのことであるが、次に入る出店者から壁など一部変えたいという希望がでた場合はどうするのか。

(担当) 予算の範囲内で可能であれば対応する。

- (委員) 応募店舗数は。
(担当) 当初募集時は、8件程度の問い合わせがあったが、結果的に今の2店舗となった。
- (委員) 宅建協会と連携して空き店舗見学会を実施しているとのことであるが。
(担当) 年に1・2回実施。宅建協会と空き店舗についての協定を結んでおり情報が入手出来るようになっている。その一環で空き店舗見学会を実施。特徴としては、空き店舗十数件を自由に見学できる形をとったところ。これまでは見学希望者が出てきたら、見たい店舗の見学をしてもらう形であった。空き店舗見学会は2日間開催し、延べ140名に近い方が見学した。
- (委員) 空き店舗の耐震強度は大丈夫か。
(担当) 店によって様々。対策が必要な店もあると承知している。(消防設備も同様)
- (委員) この2店の経営状況、実績はどうか。
(担当) ある程度の黒字が出ている。詳細な数字は控えさせていただく。
- (委員) ごひいきのお客さんはいるのか。黒字になっている理由にもなっているのか。
(担当) 徐々にお客さんがついている。固定とまではいかないが、定期的に来ていただいている状況になってきている。
- (委員) 店舗のオーナーは、チャレンジショップを運営して良かったと感じているか。
(担当) 2人ともそのように思われていると聞いている。初めての店舗運営として、よい経験の場になっていると商工会議所としても認識している。
- (委員) 出店期間が終了した時にも何か支援はあるのか。
(担当) 次の店舗の紹介や就業計画を作成し支援する。
(委員) 次に出店する方は決まっているのか。
(担当) 現在のところ未定。これから募集をかける。
- (会長) 最近出店する方が増えていると思うが、定着しているという感覚はあるか。
(担当) 商工会議所では、開業時のみならず開業後についても定期的に訪問して支援している。30年間の支援で約100件開業しているが、立ち行かなくなったのは1件のみ。恐らく3年程度は営業が継続出来る。4・5年になると1割弱程度が様々な理由で営業出来なくなる店舗が発生してくる。
- (会長) 貸す側の意識も変わってきたのか。
(担当) これまでは、家賃を下回る場合は貸してもらえなかったことが多かったが、昨今では家賃を下げてでも貸していただけることが増え、オーナーの意識も変わってきたように感じる。

5 事務連絡

6 閉会 (政策企画課長)

以上